

数年に一度の地域一斉防除で水稻初期害虫を防除できる

箱施用殺虫剤による地域一斉防除を行うと、水稻初期害虫であるイネドロオウムシ、イネミスゾウムシを2～4年間、要防除水準以下に抑制できる。これらの初期害虫を毎年調査し、イネドロオウムシは産卵盛期の卵塊数3個以上/25株、イネミスゾウムシは侵入盛期の成虫数3頭以上/25株見られた場合は、翌年に防除を実施する。

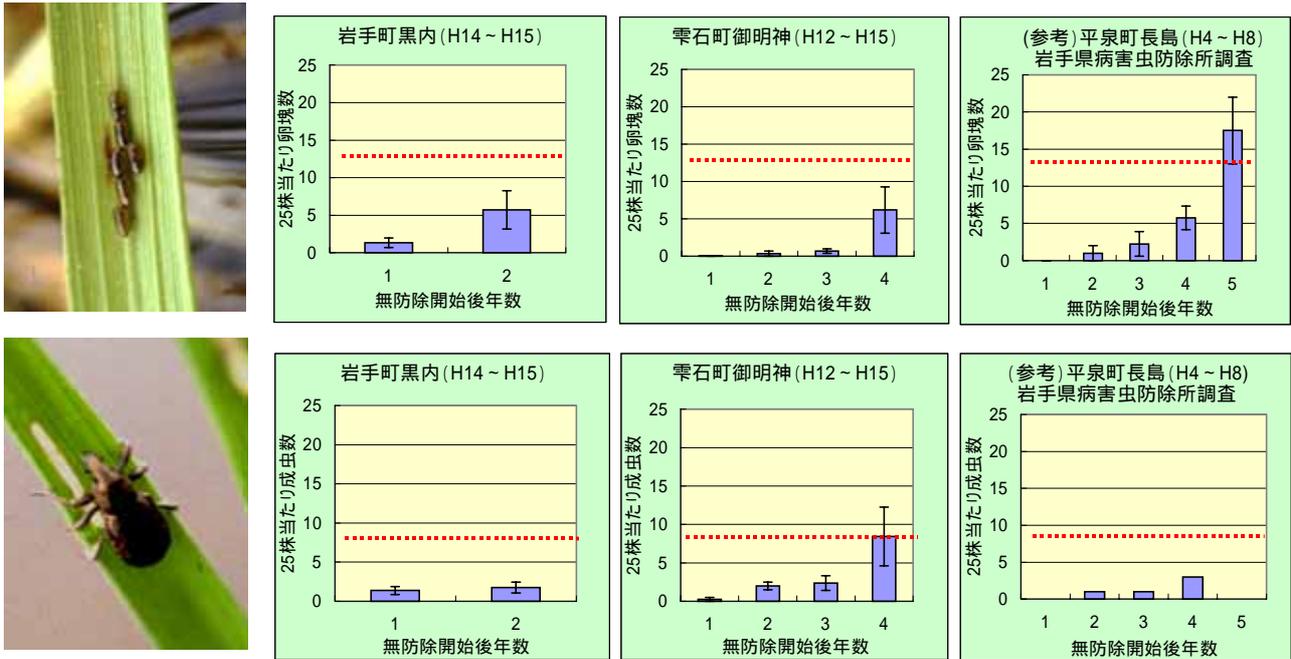


図1 一斉防除後に無防除を継続した地域における初期害虫密度推移
 上:イネドロオウムシの産卵盛期の卵塊数(平均値±標準誤差)
 下:イネミスゾウムシの侵入盛期の成虫数(平均値±標準誤差)
 注).....線は各害虫の当年の要防除水準を示す
 (イネドロオウムシ卵塊数12.5個/25株、イネミスゾウムシ成虫数7.5頭/25株)

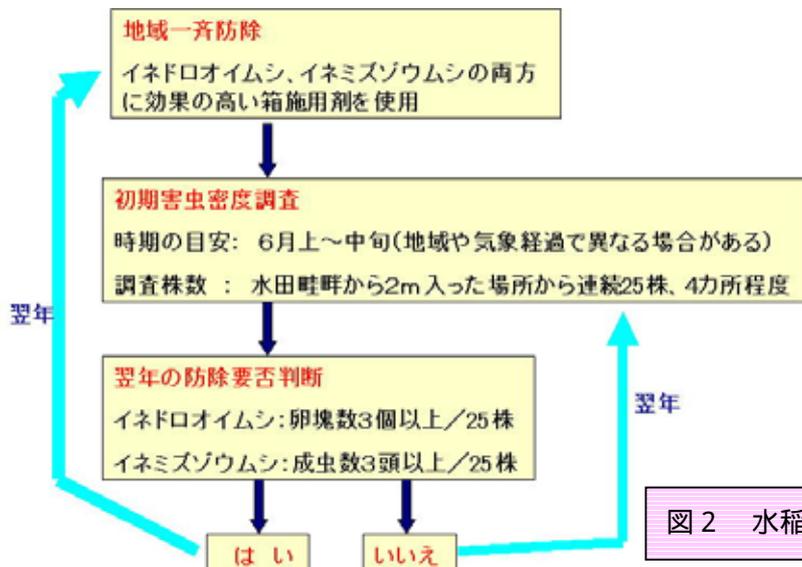


図2 水稻初期害虫の隔年防除の概要